



長野県下伊那郡の高原で、主にりんごを栽培されている美寿津農園様。
「自分の子供が安心して丸かじりできる美味しいりんごを作りたい」という想いで栽培されています。そんな毎年大人気のリんごは、予約注文で売り切れてしまう時もあるとか。今回はりんごへのFFC活用方法と効果についてご紹介いたします。

園主のお話



園主 石川 欽司 様 (右)
石川 和由 様

以前は会社勤めをしており、時々父の手伝いをする程度でしたが、近くの畑が2町歩空き、りんご栽培を勧められたのが専業農家になったきっかけです。
FFC資材は父が使っているのを見て自分も使うことにしました。使ってみると、りんごの葉っぱが元気になるのを実感しました。その結果、美味しいりんごができるようになりました。
これからも自分の子供が丸かじりしても安心な、美味しいりんごが作れるように日々勉強していきたいと思っています。また、りんご以外の果物にも挑戦していくので、楽しみにしてください！

FFC活用方法 ～りんご(シナノスイート・秋映・サンフジ)～

土づくり・木の剪定作業 12月～3月下旬

① 美味しいりんごを作るため、まずは土づくりと木の剪定作業を行います。

FFCエースは良い土を作り、元肥の効果を高めるためにこの時期に使用します。

りんごの味を良くしたり、木に活力を与えたり、良い土を長年維持し、気候変動が起こっても影響が出にくい、安定した栽培を行うことを目的に、FFCエースと有機肥料を使用しています。



散布機を使ってFFCエースと堆肥を散布します。

開花期～収穫前 4月後半～9月まで

② 花摘み→摘果→本摘果→葉摘み→玉回しの作業を行います。

りんごの樹が養分を一番使う時期にあたる花が咲き始めるころに、パイロゲン1,000倍希釈水の葉面散布を行います。
また、生長の各段階（開花前、開花中、果実肥大期、養分転換期、新枝停止期、果実成熟期）に、

年間約16回パイロゲン希釈水の葉面散布を行います。



果実に入っていくようなイメージでパイロゲン希釈水の葉面散布を行っています。

パイロゲン希釈水を散布している様子。

収穫・出荷 10月～11月中旬頃

③ 収穫！



1年間愛情たっぷり育てたりんごの収穫！箱詰めして全国へ出荷されます。

貯蔵する際はパイロゲン1,000倍希釈水で加湿。収穫してからも果実のシャキシャキ感が長持ちします！



シャキシヤキの歯応えと噛んだ瞬間のみずみずしさは、なかなか出合えない美味しさ！



美寿津農園さん直伝

美味しいりんごの見分け方♪

● 表面がぼこぼこしている（フジの場合）

良い場所になるりんごには「いぼり」と呼ばれるおうつががあります。このようなりんごは美味しいと言われています。

● ワックスを塗ったようにつやがある

美味しさのピークのちょっと前に、りんごの中の成分がしみだして、表面がワックスを塗ったようになります。これが食べごろのサインです。特にシナノスイートや秋映に見られます。

● 「つる割れ」と呼ばれる割れ目の様なものがある

りんごの実が生長しているときに、果実に傷がつくとそれを治そうとして、多くの栄養分が運ばれます。そのため、表面につるのような割れ目がある方が美味しいりんごの可能性が大了。

活用効果

葉がしっかり付いていて元気！

通常は、雪が降る頃には葉は全部落ちてしましますが、美寿津農園様のりんごの樹の葉は雪が降っても付いていたとのこと！
葉が遅くまで付いていると翌年の養分をより長く作ることができるので、葉がしっかりと付いているのは樹が元気な証拠です！

隔年欠果[※]の減少

葉がしっかりと付いていて分厚く、緑色も濃くなることで光合成が盛んになり元気な木になります。その結果、毎年安定した収穫ができるようになります。



※隔年欠果とは…1年毎にりんごがなる年とならない年が出来ること。

りんごの味がまろやかに！

葉が元気になり、養分をたくさん作るようになったことから味がまろやかで美味しいりんごができるようになりました。
また保存の状態も良くなりました。一度食べたらリピーターになってくれる方が多く、毎年たくさんの注文をいただいています！



植え付け時の活着が良好に



りんごの新しい苗木を植え替える際に、エースをしっかと入れている圃場に仮植をしていたところ、台木のところから細かい根が生えてきて驚きました。苗木に活力が付き活着もいので、良いスタートが切れました。これからの生長が楽しみです。

2016年のりんごは好評のため終了してしまいましたが、夏には桃、秋には梨なども販売予定です！
お楽しみに！



waiwai MALL

ワイワイモール

にも出店中！

